

ろっ く はい すい とう きゆう しつ

六供配水塔と旧ポンプ室

中部地方の
選奨土木遺産

所在地：愛知県岡崎市

竣工年：[配水塔] 1934（昭和9）年、[旧ポンプ室] 1933（昭和8）年 管理者：岡崎市

認定理由：昭和初期にRC造で建築された装飾性豊かなデザインを残す地域のランドマークとして貴重な土木遺産である。

令和7年度登録

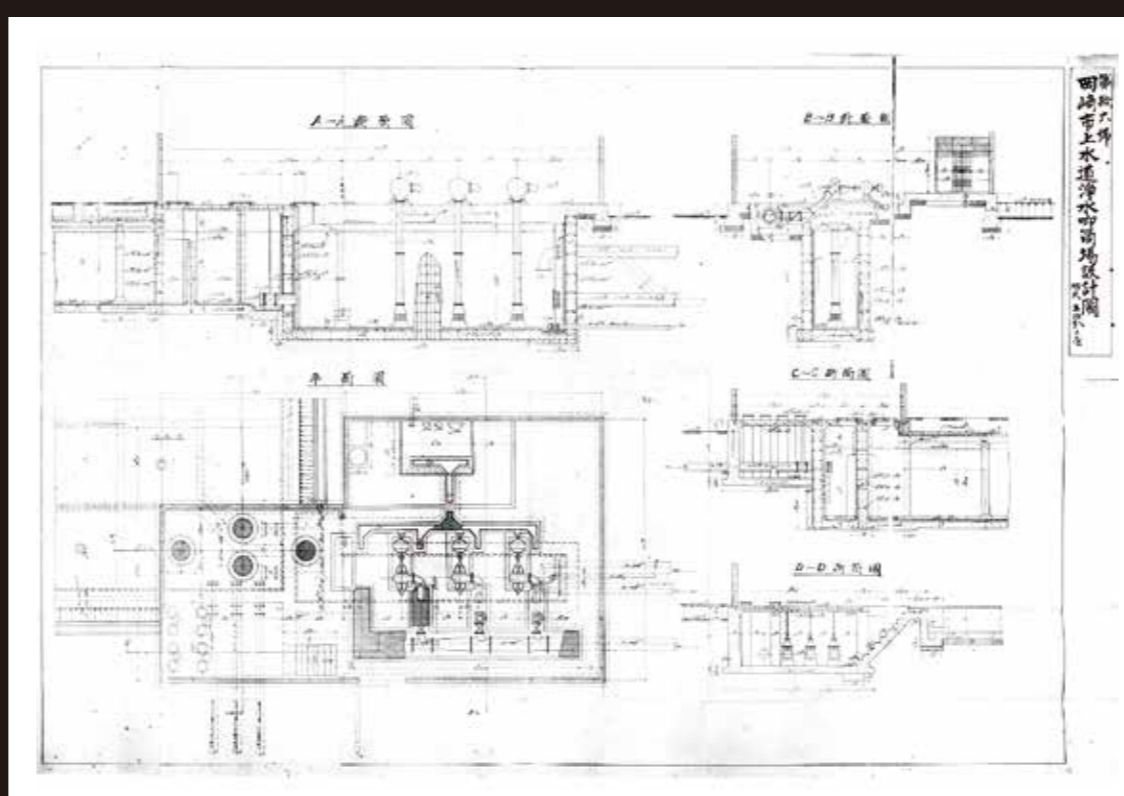
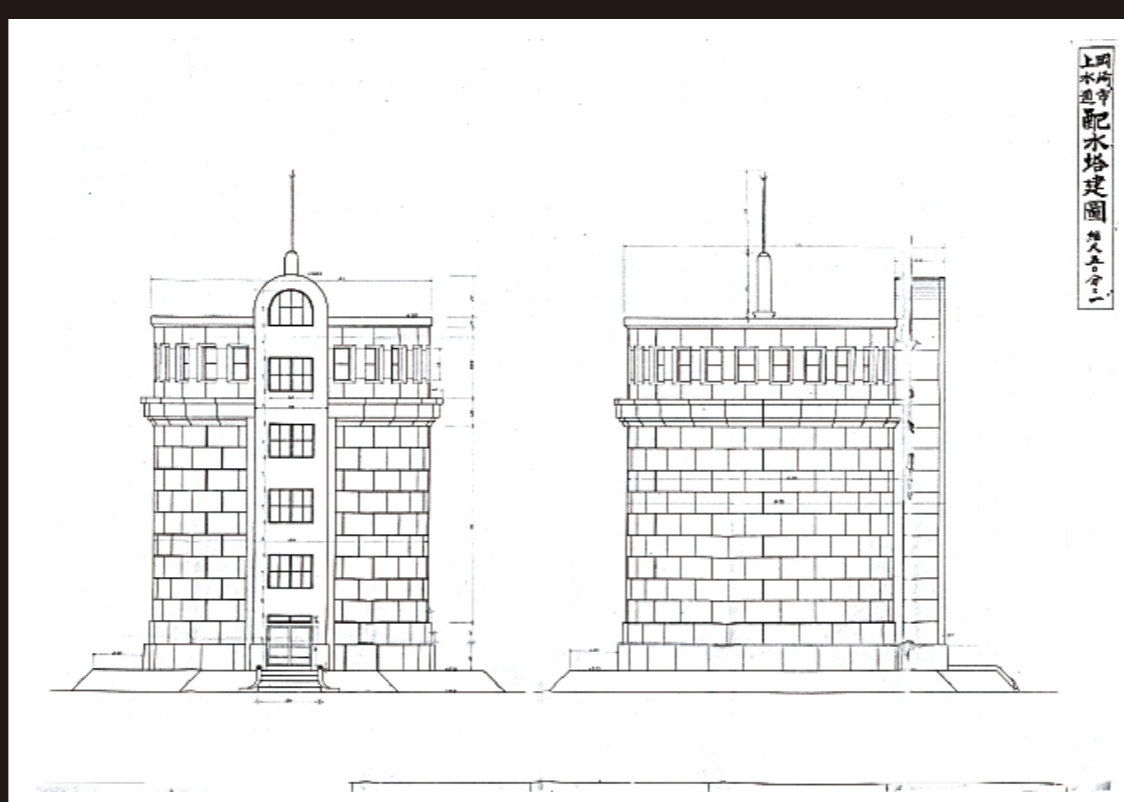


▲ 旧ポンプ室（左）と配水塔（右）。ポンプ室はその役割を終え、配水塔は現役で利用されている。

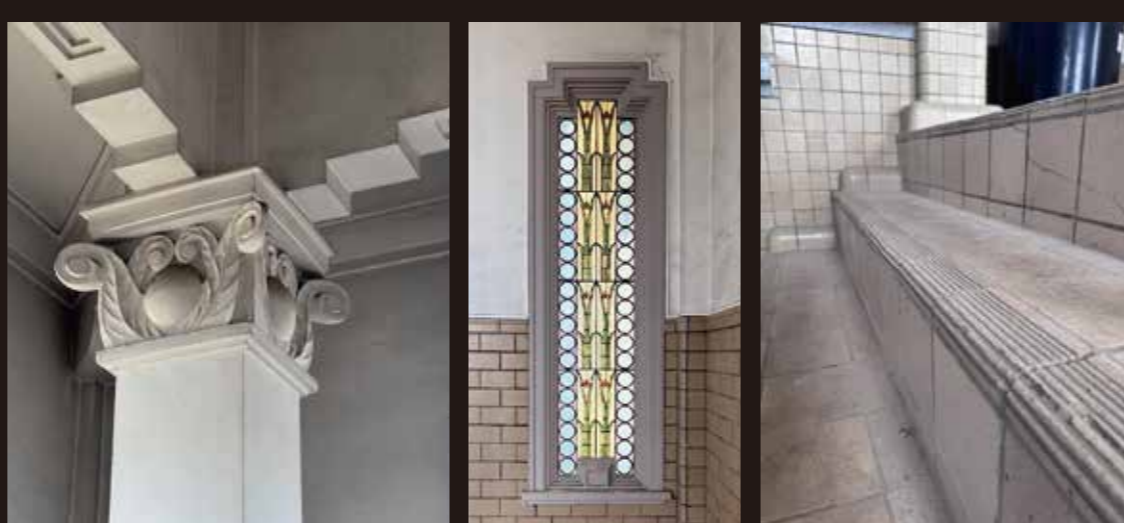
六供配水塔と旧ポンプ室は、岡崎市上水道発祥の地として、市民生活および産業振興の源として、上水を給水し続けてきた系譜を持ち、歴史上極めて意義のある建造物であるとともに、当時の西洋古典的な高い芸術性を継承していることから、土木遺産としての価値が高いと言える。昭和初期は、日本におけるRC造の初期発展段階であり、西洋古典主義の様式と組み合わせたものが多くつくられた。対象施設はその典型と言える。

配水塔の外観は、円筒形の貯水槽本体と上部へ上がるための直線的な階段室が一体となり、上部の軒周りは縦長窓を等間隔に並べ外観意匠のアクセントを施した西洋古典的なデザインである。また、配水塔の最上階の窓からの採光は、リブ・ヴォールトのドーム天井を水面に映り込ませ、神秘的な一面を持つ。屋根修繕やサッシ取り替えなどの修繕以外、本体は完全にその姿を残し、現役のインフラとして利用されている。

旧ポンプ室の外観は、タイル張りであり、1988（昭和63）年にタイル張りで修繕された。内部空間は、植物文様の柱頭をもつ漆喰柱や、ステンドグラスを配した装飾性豊かなデザインで、建設当時の状況を非常に良く残している。



▲（上）配水塔建図、（下）上水道浄水唧筒場設計図



▲ 旧ポンプ室の内装ディテール



▲ 旧ポンプ室内観：機械類は、建設当時、三台のポンプが設置されていた。住原製作所製であった。モーターは芝浦製作所製で出力40馬力あり、配水塔への揚水に使用されていた。現在は2004年度に更新された2台のポンプ・モーターが残されている。

